

岡山県議会議員

秋山まさひろ 県議会だより



6月11日～7月3日
令和2年6月 岡山県議会定例会

事務所：〒712-8066 倉敷市水島高砂町1番7号 TEL：(086)448-8833 発行人：秋山 正浩



令和2年6月岡山県議会定例会が6月11日から7月3日までの23日間で開催されました。

今回の定例会におきまして、私の所属する民主・県民クラブを代表し、質問に立ち、以下の内容について執行部より答弁を受けましたので、質問・答弁内容の要旨を一部ご紹介いたします。

なお、本議会においては、新型コロナウイルス感染症対策として、マスクを着用し登壇しました。

状況を把握することについて、現段階での所見を伺いたい。

【答弁】伊原木知事

抗体検査は、流行地域での状況把握に適していますが、本県の感染者数は極めて少なく、使用可能な検査キットの精度にも課題があることから、現時点で、県内で検査を実施することは考えておりませんが、国の検査結果を注視してまいりたいと存じます。

新型コロナウイルス感染症について

第2波以降への備えについて、早期に感染者を特定できる検査能力の向

て、PCR検査をスムーズに受けられるため

のフローの改善が必要であり、今後、検査体制の拡充、円滑な検査の実施に向けた取り組み、医療機関の感染防止対策と業務の負担軽減策等の支援も必要だが、併せて伺いたい。

現在、多岐にわたる産業支援策が講じられているが、業種によってはタイムラグが生じることから、タイムリーかつ的確な支援が中長期的に必要だが、所見を伺いたい。

【答弁】伊原木知事

屋外検体採取センターを整備するとともに、検査機器の導入支援や民間検査機関と連携し、検査体制の拡充に努めてまいります。また、医療機関に対しては、現場ニーズを踏まえた医療資材の確保や感染防止のための設備整備等について、国の補正予算を最大限に活用し、支援してまいりたいと存じます。

●産業支援について
中長期的な支援について、コロナ禍が与える経済社会への影響は、リーマンショックを上回る可

能性があると試算されており、水島コンビナートを中心とする各種製造業や、県民の移動手段となるバス等の地域公共交通企業など、多くの業種で厳しい事態に向か合って、対策を行っている。現在、多岐にわたる産業支援策が講じられているが、業種によってはタイムラグが生じることから、タイムリーかつ的確な支援が中長期的に必要だが、所見を伺いたい。

【答弁】伊原木知事

社会経済活動は徐々に回復しつつあるものの、県内経渌は厳しい状況が続いており、資金繰りや雇用の維持などの対策に加え、新しい生活様式へ



の対応など中長期的な支援が必要と考えております。今後の影響が顕在化する業種も想定されることがから、支援機関等と連携し、業界の動向を把握しながら、適時適切な支援に取り組んでまいります。

雇用の現状認識等について
雇用の現状認識等について、解雇や雇い止め等、雇用情勢が急速に悪化している実態が顕在化している。現状認識と、雇用維持はもとより新就職氷河期世代をつくらないための支援策について、併せて所見を伺いたい。

【答弁】伊原木知事

雇用調整助成金の申請件数は急増し、新規学卒者の内定率は大きく低下するなど、雇用情勢は厳しさを認識しております。県としては、労働局等と連携した要請活動や、県独自の特別支援金などにより、雇用の維持に全力を挙げるとともに、Webを活用した面

接機会や、新規学卒者の就職活動を関係機関等と連携して強力に支援してまいりたいと存じます。

観光振興について、観

光客数は大幅に減っており、その影響は、宿泊施設、観光バス、タクシー、関連する飲食店など、このダメージは広く及んでいます。知事は、観光振興を産業振興政策の中核に位置付け、積極的な取り組みを継続してきたが、観光産業を取り巻く環境が大きく変わる中で、観光戦略をどう進めていくのか、所見を伺いたい。

【答弁】伊原木知事

まずは、国内誘客に取り組むことが重要であり、海外誘客についても、回復時に向けた準備を進める必要があると考えております。このため、県民限定の宿泊クーポンの発行など、県内観光需要の喚起から始め、感染症対策を徹底した上で、

取り組みたいと考えております。回復を図つてまいりたいと存じます。

●教育への影響

学習の遅れについて、国は、年度当初予定していた内容の指導を年度中に終えることが困難な場合の特例的な対応について通知したが、県立学校や市町村立学校における学習の遅れをどう認識し、対応するのか。また、国の通知をどう受け止め、対応するのか、併せて教育長の所見を伺いたい。

【答弁】伊原木知事

まずは、国内誘客に取り組むことが重要であり、海外誘客についても、回復時に向けた準備を進める必要があると考えております。このため、



【答弁】鍵本教育長

20年度実施の県立学校の入学試験について、市町村により休業期間が異なり、公平な選抜が困難になる懸念がある。入学試験の概要や、例年との違いについて、小学6年生、中学3年生等に対し、早期の周知が必要だが、検討状況について伺いたい。また、入学試験内容の周知時期、受験の時期に再び感染が広まつた場合の対応について、併せて教育長に伺いたい。



【答弁】鍵本教育長

【答弁】鍵本教育長

の短縮や行事の精選等により、遅れを取り戻すことは可能であると認識しております。今後、再度の臨時休業により、予定の内容の指導が困難な状況となれば、特例的な対応も含め、児童生徒の学びを保障できるよう、県立学校や市町村教委を指導してまいりたいと存じます。

20年度実施の県立学校の入学試験について、市町村により休業期間が異なり、公平な選抜が困難になる懸念がある。入学試験の概要や、例年との違いについて、小学6年生、中学3年生等に対し、早期の周知が必要だが、検討状況について伺いたい。また、入学試験内容の周知時期、受験の時期に再び感染が広まつた場合の対応について、併せて教育長に伺いたい。

20年度実施の県立学校の入学試験について、市町村により休業期間が異なり、公平な選抜が困難になる懸念がある。入学試験の概要や、例年との違いについて、小学6年生、中学3年生等に対し、早期の周知が必要だが、検討状況について伺いたい。また、入学試験内容の周知時期、受験の時期に再び感染が広まつた場合の対応について、併せて教育長に伺いたい。

20年度実施の県立学校の入学試験について、市町村により休業期間が異なり、公平な選抜が困難になる懸念がある。入学試験の概要や、例年との違いについて、小学6年生、中学3年生等に対し、早期の周知が必要だが、検討状況について伺いたい。また、入学試験内容の周知時期、受験の時期に再び感染が広まつた場合の対応について、併せて教育長に伺いたい。

20年度実施の県立学校の入学試験について、市町村により休業期間が異なり、公平な選抜が困難になる懸念がある。入学試験の概要や、例年との違いについて、小学6年生、中学3年生等に対し、早期の周知が必要だが、検討状況について伺いたい。また、入学試験内容の周知時期、受験の時期に再び感染が広まつた場合の対応について、併せて教育長に伺いたい。

とが可能と認識しており、現時点では、例年どおりの試験実施に影響はないものと考えております。入学試験内容の周知については、7月上旬に入学者選抜実施大要を決定し公表する予定です。今後、再び感染が広がった場合には、必要に応じて対応を検討し、周知を図つてまいりたいと存じます。

の実施と、それを授業時間数にカウントするなどの教育課程の柔軟な運用が重要であり、特に、最終学年の児童生徒の学びを担保するためには、早急に体制を整えるべきと考える。学校のICT活用に係る取り組みの進捗をどう評価し、今後どう対応するのか、併せて教育長に伺いたい。

の実施と、それを授業時間数にカウントするなどの教育課程の柔軟な運用が重要であり、特に、最終学年の児童生徒の学びを担保するためには、早急に体制を整えるべきと考える。学校のICT活用に係る取り組みの進捗をどう評価し、今後どう対応するのか、併せて教育長に伺いたい。

ICT活用について、第2波到来のリスクを考えれば、オンライン授業

の実施と、それを授業時間数にカウントするなどの教育課程の柔軟な運用が重要であり、特に、最終学年の児童生徒の学びを担保するためには、早急に体制を整えるべきと考える。学校のICT活用に係る取り組みの進捗をどう評価し、今後どう対応するのか、併せて教育長に伺いたい。

の高校生、とりわけ3年生にとっては、高校生活の集大成を示そうと思つていた機会が失われ、計り知れない程の悔しさと悲しさがあるものと察する。また、修学旅行等の計画してほしいが、併せ



い。
て教育長の所見を伺いた

【答弁】鍵本教育長

代替大会が開催できな
い部活動については、近
隣校との交流戦や発表の
機会を計画するなど、3
年生にとって区切りとな

る場の工夫が各校で検討されてい
るところです。また、修学旅行等
については、その教育的意義や児童生徒の心情等
を配慮する必要があり、
今後の感染状況も踏まえ
ながら、各校や市町村教
委において適切に判断す
ることとしております。

思っております。しかし
ながら、こうした中でも、
普段の生活が決して当た
り前ものではないこと
など、様々な気付きが
あつたこと思います。
今回の経験や思いを将来
の糧に、これから学校
生活に前向きに取り組む
ことを期待しております。

河川の状況把握等について

河川の状況把握等について

交通安全対策について

き続き、市町村とも連携し、効果的な周知方法等について検討してまいりたいと存じます。

【答弁】 扇澤警察本部長

A photograph showing three men in formal attire (suits) and face masks standing behind a wooden podium with microphones. The man in the center is speaking, while the others listen attentively.

